

「私はだまされたい!」と 思っていますませんか?

東京都金融広報委員会

電話 〇三—三三七七—三七七八

振り込め詐欺や悪質商法など、様々な手口で消費者を騙す事件が全国各地で発生しています。東京都も例外ではなく、中高生

から高齢者まで多くの方々被害を受けています。関係者によると、そうした事件についての知識が全くない方のみならず、「知

つてはいたが、自分はだまされないと思っていた」という被害者も少なくないとのこと。そこで、東京都金融広報委員会では、東京都や区の消費生活センターおよび警視庁の協力を得て、被害の予防と対応策に関するチラシを作成、新聞に折り込む形で幅広く配付しました。

チラシでは、代表的な六つの問題事例①振り込め詐欺、②未公開株、③架空投資、④マルチ商法、⑤ネットオークション、⑥多重債務を取り上げ、身近な話を織り込んだQ&A形式に仕立てました。また、何かあった場合にとっさに対応できるよう相談窓口とその電話番号も掲載し、電話の側や台所などに貼っていただけのようなや厚めの紙を用いました。

さらに、上記の内容

を音声でも伝えるため、チラシの解説文を執筆した丹野美絵子金融広報アドバイザーがラジオ番組に出演。チラシと同様のテーマで、司会の生島ヒロシ氏が質問し、それに丹野氏が答える構成となりました。身近な問題として改めて実感したリスナーも多かったのではないのでしょうか。

当委員会では今年度、①合理的な生活設計の推奨、②金融商品の選択に関する基礎知識の提供、③金融トラブルの予防、④学校での金融・金銭教育の普及に向けて、効果的で効果的な広報活動をしていく方針です。その際、今回ご紹介したチラシ、ラジオといったマスメディア広報のほか、講座や講習会への金融広報アドバイザーの派遣といった対面型広報にも引き続き注力していきたいと考えていますので、ご関心がある東京都民の皆さまは、当委員会までお気軽にご相談下さい。

一人でも多くの府民のお役に立ちたい

大阪府金融広報委員会

電話 〇六—六二〇六—七七四七

特徴その一 市区町村と連携しニーズを踏まえた学習プランを提供

大阪は大会ですが、よくみると商業地域、工場地域、ベッドタウンなどに分けられ、各地の金融学習ニーズも異なっています。

このため、事務局員が各地の消費生活センター等を丹念に訪問し、金融学習の有用性を説明のうえ、地域のニーズを踏まえた「連

続講座」の共催等を提案していただきます。地域の金融学習ニーズは高まっております。訪問開始後の講師派遣回数は、二年連続百件を超えるなど順調に普及しています。作業の分担は、会場準備と参加者募集を市区町村が、無料講師派遣・資料提供、修了証授与を委員会が行います。

お役立ち情報「市区町村との」連続講座」共催は、互いに費用対効果が望めるほか、中立・公正な立場で正確な金融情報を提供することから、「ご信頼をいただいています。」

講演テーマ例・インターネットや携帯での金融トラブル、子どもの金融教育、金融商品の選び方や資金運用上の留意点、年金、相続など。

特徴その二 金融・金銭教育は教育委員会など周囲の支援が大切

学校では、ゆとり教育を導入しているとは言え、実際には金融教育のためになかなか時間が取れないのが実情です。このため、健全な金銭観や基礎的な金融経済知識を実践・研究していただく研究校との打合せに、各地教育委員会にもご参加いただき、子どもが興味を持つ内容で、学校の特徴を活かした活動計画を早期にまとめるとともに、保護者や教員向けの金融講演会を呼びかけて効果をあげています。

この結果、「お金やものを大切にしようになった」、「以前は荒れた学校だったが、お金や勤労のことを話し合ううちに良くなった」など、嬉しいご報告も…。また、平成十九年度は、教員向けの金融教育研修にも力を入れ、大阪府教育センター等との共催で、中府教育センター等との共催で、学(社)、高校(家・公)教員の研修を計画しています。



特徴その三 委員会のPR活動がご好評をいただいています

大阪証券取引所等との共催で、「子どもと学ぶ金融・株式スクール」を春夏秋冬に開催し、マスコミの協力によって多数の応募があります。また、全国紙に委員会名で月一回掲載している「子どもと学ぶマネー講座」は、読者から質問や講師派遣の申込みをいただくようにもなりました。

私達の活動は、地道で派手さはありませんが、マスコミなどの力も借りながら、一人でも多くの府民のお役に立てるよう頑張りたいと思います。



人生の目的を実現するために、「夢は見るもの」「目標は達成するもの」と言われます。夢実現のための実行・援助活動を通して、生きる力と心を育てていきます。



生きる力と【あ】【た】【ま】

北海道 金融広報アドバイザー
横江 光良

産者・お店屋さん・消費者の段階を踏まえての体験は、遊びの世界を通して現実を知り、子どもたちに金銭への興味・関心を高めることになりました。

事例二 中学生に「人生の先輩の話」をしたところ、多くの質問がでて、人生について真剣に考えてくれました。①「人生とは？」↓学ぶこと、夢を持ち続けること、そしてけっしてあきらめないこと ②「良い人生とは？」↓前進してゆく力で、大きな理想に挑んだ人生 ③「生きていくうえで大切なことは？」↓なんととしてもやりきるおおいなる勇氣と、誠実な生き方

事例三 池上学院高校「実践社会学」を平成十六年度より継続中。悪質商法についての生徒レポートから：知識があればだまされそうになったとき「おかしい」と気付くことができる。だまされた場合でも、取るべき手段を学ぶことができました。

事例四 清田区シニアスクール生は、小学校内の教室で児童との世代間交流をしながら、生き生きと社会科（金融経済）も学んでいます。

私たちも一緒に、「あかるく」「たのしく」「まえむきに」取組み「一人に希望と勇氣を与えられる人」になられる様応援しています。

金融広報アドバイザー紹介

心に残るお話を

福井県 金融広報アドバイザー
谷山 満



金融広報アドバイザーの委嘱を受けて二年、かつて校長だった私は小学校四十五校、中学校八校において総計四千一百一名の児童、生徒達にお金に関する話をしてきました。色々な反応がありますが、伝えたいことが感想文に書かれているのを目にすると、心

からやりがいを感じます。例えば、敦賀市の中央小学校一年生は、「わたしは一円ぐらいたくなくていいと思ってたけど、先生のお話を聞いて、一円でも十円でも大切だとわかりました」と書いてくれました。また、お手伝いしてもらった十円の大切さを教えた福井市の杜南小学校六年生から「父の苦労や母の支えの上に家族が成り立っていることを実感しました」という感想文をもらったときには、期待していた以上のことを学んでくれたことに感激しました。ところで、子供はお金のお話を淡々と説明しても聞いてくれません。ですから、パワーポイントを使いながら自分自身の体験談やことわざに含まれた先人の知恵などについて、できるだけ心に残る話を盛り込むよう意識しています。長年の教員の経験から、心に残る話を通じて学んだことは、一生涯忘れないものだと思っています。

「金融に関する消費者教育フォーラム」を開催し、ネットワークの連携強化を図っています

◆「金融に関する消費者教育フォーラム」とは

金融広報中央委員会では、去る平成十四年から毎年一回、金融広報中央委員会と同じように、金融に関する消費者教育に携わっている機関・団体等をお招きして、活動事例の紹介や問題意識の共有、今後の連携に関する自由な意見交換を行い、これを通じてネットワークの連携強化を図ることを目的としたフォーラムを開催しています。

お招きする先は、当委員会と委員団体のほか、当委員会と活動の狙いを共有するNPO(特定

非営利活動法人)、金融に関する消費者教育に造詣の深い学識経験者の方などです。また、金融庁、内閣府、文部科学省の同教育関係部署からも、オブザーバー参加を頂いています。

◆今年のフォーラムでは・・・

六年目にあたる今年は、四月

第6回「金融に関する消費者教育フォーラム」ご出席者一覧 (50音順、敬称略)

- (機関・団体)
- ・金融知力普及協会
 - ・証券学習協会
 - ・消費者教育支援センター
 - ・信託協会
 - ・生命保険協会
 - ・生命保険文化センター
 - ・全国銀行協会
 - ・全国消費生活相談員協会
 - ・全国労働金庫協会
 - ・第二地方銀行協会
 - ・東京証券取引所
 - ・東京都消費生活総合センター
 - ・投資信託協会
 - ・日本クレジット産業協会
 - ・日本証券アナリスト協会
 - ・日本証券業協会 証券教育広報センター
 - ・日本消費者協会
 - ・日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
 - ・日本青年団協議会
 - ・日本損害保険協会
 - ・不動産証券化協会
 - ・預金保険機構

- (学識経験者など)
- ・生活経済ジャーナリスト 高橋 伸子
 - ・前文化女子大学 非常勤講師 櫻井 純子
 - ・弁護士 桜井 健夫

- (官庁)
- ・金融庁総務企画局
 - ・内閣府国民生活局
 - ・文部科学省生涯学習政策局
 - ・文部科学省初等中等教育局

二十七日に、日本銀行本店内において第六回「金融に関する消費者教育フォーラム」を開催し、合計二十九先の機関・団体等のご出席を頂きました。

フォーラムでは、まず金融広報中央委員会から、十九年度の活動方針や、「基本を多くの人に伝える」という活動コンセプトをご説明し、具体的な連携事業の提案等を行いました。そして、参加機関・団体からは、最近の活発な活動状況や問題意識、今後の主な活動予定等を熱心にご紹介頂きました。

◆ご参加者の声は・・・

ご参加頂いた関係者からは、「六年間の開催を経て、このフォーラムでお会いするメンバーとの間での問題意識の共有や、円滑な連携が、かなり軌道に乗ってきたように思う」とのご感想や、「金融商品の複雑化が進み、多重債務者の問題も深刻化してきているので、この分野の消費者教育ニーズはますます高まっている。その意味でも、官民を合わせた連携の強化が一層重要になっており、フォーラム開催の意義は大きい」との声が聞かれました。



*金融広報アドバイザーとは、金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師をつとめたり、生活設計や金融・金銭教育の指導等を行う金融広報活動の第一線指導者です。現在、全国に約480名います。



「貯蓄」。それは、金融広報中央委員会が発足する前からの運動でした…

積み木で遊ぶ子どもの姿が描かれたこのポスターは、昭和25年度に掲示されたものです。少年は「ち」「よ」「ち」「く」の文字を積み上げ、少女はその先を見つめているかのようです。昭和25年度は、金融広報中央委員会の前進である貯蓄増強中央委員会が発足する2年前にあたり、大蔵省と日本銀行からのメッセージとなっています。

戦後、昭和21年にはインフレ収束を目的に、大蔵省、日本銀行、各都道府県の支援協力のもと、政府主導の貯蓄運動が推進されていました。ポスターにある「経済自立促進特別貯蓄運動」はその意思を継ぎ、昭和25年の9月から10月にかけて実施されたものです。

21世紀の今に生きる私たちの暮らしは、この少年が積み上げ、少女が見つめた先にあるのかもしれませんが。

「創刊によせて」

金融広報中央委員会会長 豊田 武久



金融広報中央委員会(愛称「知るぽると」)では、このたび広報誌『くらし塾 きんゆう塾』を四半期ごとに発行することになりました。

のではないのでしょうか。

『くらし塾 きんゆう塾』においては、「知るぽると」の考え方や活動内容をご紹介しつつ、「きんゆう」を通じてよりよいくらしや生き方を一緒に考える場を提供できればと考えています。最近では「くらし」や「きんゆう」に関する情報が洪水のように溢れていますが、その中で本誌は皆様方が思わず手に取って読んでみたくなるような、キラリと光る存在になりたいと願っています。

読者の皆様からのご意見やお知恵を頂戴しながら、今後誌面の充実を図っていきたいと考えていますので、どうかよろしくお願ひします。

皆様の声をお寄せください

『くらし塾 きんゆう塾』では、より良い誌面づくりを目指し、皆様からのお便りをお待ちしています。また、次号以降、皆様の声をご紹介するコーナーをもうけたいと考えています。

どうぞ、次の事項をご記入のうえ、下記宛先まで皆様のお声をお送りください。平成19年8月末までにご意見を下さった方の中から、抽選で10名の方に、「知るぽると特製日めくりカレンダー」をプレゼントいたします。

また、いただいた声を本誌に掲載することとなった方には、知るぽると特製図書カードをプレゼントいたします。

◆ 記入していただきたいこと

1. 今号で面白かった記事
2. 今号で「もう一工夫欲しい」と思った記事
3. 今後取り上げて欲しいテーマ
4. 一言ご感想

5. ご住所・お名前・電話番号
 6. 皆様の声をご紹介するコーナーへの掲載希望の有無/掲載するに当たり、本名ではなくペンネームをご希望の場合は、ペンネーム
- * いただいた個人情報は、プレゼント発送、誌面への掲載に関してのご連絡についてのみ使用させていただきます。

- ◆ 宛先
 - ・ 郵送 〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町2-1-1 日本銀行情報サービス局内 金融広報中央委員会 「くらし塾 きんゆう塾」担当宛
 - ・ メール info@saveinfo.or.jp メールタイトル:「くらし塾 きんゆう塾」について
 - ・ FAX 03-3510-1373 金融広報中央委員会 「くらし塾 きんゆう塾」担当宛

本誌は全国の金融広報委員会等でお配りしています。個人の方の定期購読はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で知るぽるとホームページ上に掲載していますので御利用ください。(http://www.shiruporuto.jp/about/kurashijuku/index.html)

くらし塾 きんゆう塾 創刊号

平成19年7月発行
編集・発行 金融広報中央委員会
編集協力・印刷 廣済堂
© 金融広報中央委員会 禁無断転載

【編集後記】 タイトル、表紙、取り上げるテーマ、レイアウト…一つ一つについて、「知るぽるとの広報誌に相応しいものか?」「皆様にメッセージがわかりやすく伝わるか?」などと考えながら、手探りで「広報誌創刊号」をつくりました。皆様のご感想はいかがでしょう?